

真庭市国際化推進指針

岡山県真庭市

平成 20 年 2 月

目 次

第1章 国際化推進指針の策定にあたって

- 1 趣旨
- 2 真庭市総合計画における位置づけ
- 3 国際化推進指針の策定期間

第2章 真庭市における国際化の現状と課題

- 1 外国籍市民の現状
- 2 人材育成施策の現状
- 3 国際交流の現状
 - (1)南オーストラリア州・ビクターハーバー市との交流
 - (2)中華人民共和国 江西省 瑞金市との交流
 - (3)京都アメリカ大学コンソーシアム (KCJS) 学生ホームステイ受け入れ
- 4 国際化推進における課題
 - (1)国際化推進体制
 - (2)人材育成
 - (3)国際交流活動
 - (4)多文化共生社会

第3章 国際化推進の基本方針

- 1 基本的な考え方
策定の基本的視点
- 2 国際化推進体制の整備
 - (1)市民団体の活動支援
 - (2)庁内推進体制
 - (3)ネットワークづくり
- 3 人材育成の推進
- 4 国際交流活動の推進
- 5 多文化共生社会の実現

用語説明

資料

- ①ビクターハーバー市との交流の足跡
- ②中華人民共和国江西省瑞金市との交流の足跡
- ③京都アメリカ大学コンソーシアム (KCJS) 学生ホームステイ受け入れ
- ④A L T配置状況

第1章 国際化推進指針の策定にあたって

1 趣旨

近年のインターネット等の普及により経済活動はもとより人や物の交流がグローバル化しています。

このように、留学、ビジネスや観光等で世界の人々が国を超えて活動している状況の中、本市においても就労や結婚等により外国人が生活する機会が増加し、地域社会の国際化が更に進んでいくものと思われれます。

また、合併前から、友好都市としての南オーストラリア州・ビクターハーバー市や中華人民共和国江西省瑞金市との交流を、そして、京都アメリカ大学コンソーシアム(KCJS)学生の受け入れを通じて海外との交流を行ってきました。

今後は、国籍等に関係なく、すべての人々が安心して暮らせる社会を目指し、異文化を理解し、国際感覚の醸成に努めるなど、市民・企業・国際交流団体・行政がそれぞれの役割を担い、協働により国際化を推進する必要があります。

このような状況を踏まえ、今後、真庭市の国際化推進に向けた基本的な考え方を示す「真庭市国際化推進指針」を策定するものです。

2 真庭市総合計画における位置づけ

真庭市総合計画の基本計画におけるまちづくりの基本的方向の中に「国際交流・地域間交流の推進」を政策として掲げています。その中で「国際性豊かな人づくり」を施策の一つとして位置づけ、生徒の海外研修などを実施し、市民の国際交流を推進し、国際感覚豊かな市民の育成を促進しています。

また、「観光の振興」の面においても、外国人が気持ちよく観光してもらえる環境づくりに向け、観光関係団体との連携を図るなど、受け入れ体制の強化を図っています。

3 国際化推進指針の期間

期間は定めず、国際化の進展、その他様々な情勢の変化により、適宜見直しを行うこととします。

第2章 真庭市における国際化の現状と課題

1 外国籍市民の現状

本市には平成19年3月末日現在、市の総人口53,071人の0.58パーセントにあたる307人の外国籍市民が生活しています。2002年（平成14年）3月末日の181人と比べるとこの5年間で約7割増加しています。

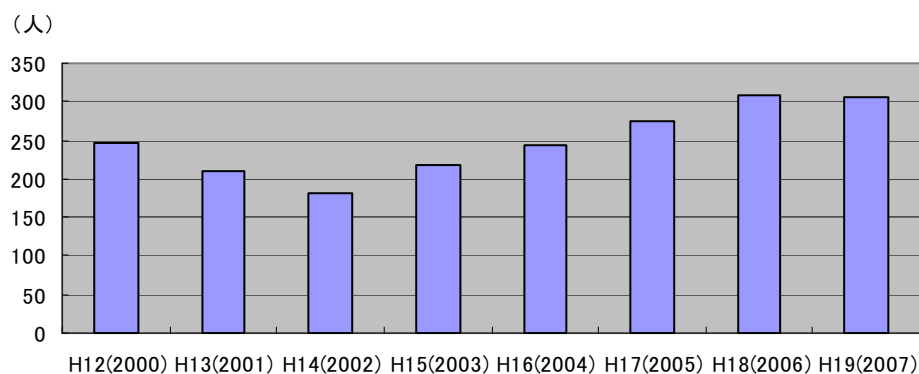
国籍別の登録状況を見ると、最も多いのは中国籍の市民です。このほか、韓国及び北朝鮮、フィリピン、ブラジルなど17か国の外国籍市民が生活しています。

各年3月末日現在

年次	(人) 総人口	(人) 外国人登録人口	(%) 対人口比
平成12年(2000)	56,632	246	0.43
平成13年(2001)	56,210	211	0.38
平成14年(2002)	55,825	181	0.32
平成15年(2003)	55,359	218	0.39
平成16年(2004)	54,849	244	0.44
平成17年(2005)	54,425	275	0.51
平成18年(2006)	53,737	309	0.58
平成19年(2007)	53,071	307	0.58

住民基本台帳より

外国人登録者数の推移



2 人材育成施策の現状

英語教育の充実や外国の生活・文化を知ることを目的に、市内の全小・中学校、幼稚園にALTを配置し、国際感覚を身に付ける教育を行っています。

幼稚園では、簡単な英会話を通して異文化に触れる体験教育を行っています。

小学校では、主に3年生からの「総合的な学習の時間」に「英語活動」として位置づけ、楽しく英語に親しむことにより、異文化の理解やコミュニケーション能力の育成を図っています。

中学校では、英語科で担当教員とALTの2名で授業を行うことにより、「聞くこと」「話すこと」の理解を深めるよう努めています。

3 国際交流の現状

(1) 南オーストラリア州・ビクターハーバー市との交流

平成7年に岡山県の南オーストラリア州友好訪問団に旧八束村から参加していた酪農家が、意見交換会の席で酪農家相互の交流を提案したことから始まり、旧八束村とビクターハーバー町との間で「友好親善交流に関する覚書」を交換し、中学生海外派遣事業によりビクターハーバー市を訪問、また蒜山高原マラソンへ参加するため訪問団が来日するなど交流が行われています。そして、平成12年5月に旧八束村長がビクターハーバー市を訪問し、姉妹都市縁組を締結しており、相互派遣事業を活発に取り組み今日に至っています。

※平成12年にビクターハーバーは町から市へ名称変更



南オーストラリア州を指す
州の南部に位置する

(2) 中華人民共和国 江西省 瑞金市との交流

平成7年10月に、中国江西省から友好訪問団が旧湯原町に視察に来たことがきっかけで交流が始まり、平成12年には湯原中学校の生徒を中国に派遣し、平成13年には中国の中学生を受け入れるなど、教育交流を進めています。また、平成13年1月には文化、教育、経済、技術の友好都市提携の調印を行っていますが、真庭市になってからは交流が中断されています。



江西省を指す
江西省の東南地域は福建省にあたり、その省境に瑞金市が位置する

(3) 京都アメリカ大学コンソーシアム（KCJS）学生ホームステイ受け入れ

（財）岡山県青年館が青年招へい事業として行っており、京都アメリカ大学コンソーシアム（KCJS）において、日本の歴史や文化、工業技術などについて学んでいるアメリカ合衆国内の大学の学生とホームステイを通じて交流を行っています。

市内では、北房地区で平成9年から、落合地区では平成14年から交流を継続しており、それぞれ毎年10人以上の学生の受け入れを行っています。

4 国際化推進における課題

(1) 国際化推進体制

就労、結婚等により、本市で生活する外国人は年々増加し、又、多くの外国人観光客も訪れることから、国際化推進の視点による行政サービスが求められるようになってきており、市民及び職員の国際化意識を高める必要があります。

一方、NPO・ボランティア団体とのネットワークづくりが急がれるとともに団体を支援する施策も必要となっています。

(2) 人材育成

人・物・資金・情報など海外との交流が拡大するというグローバル化が進むなかで、国際交流だけでなく、外国籍市民の相談業務などに携わる市民ボランティアが数多く育ち、その中から国際感覚あふれる市民リーダーが現れることが期待されています。

(3) 国際交流活動

市町村合併協議の中で引き継がれた友好都市交流事業については、これまでの交流経過から対象地区が限定されており、中学生を中心とした交流が主であります。交流によるメリットを一部地域の市民しか享受できていないのが現状であり、交流を市全域に広げていくなどの対策が求められています。

(4) 多文化共生社会

定住外国人にとって暮らしやすく、外国人観光客や外国人就業者等にとっても快適に滞在でき、安心して活動できる地域である必要があります。

多文化共生とは「お互いに違いを理解し尊重し合いながら共同生活の中で一定の共通のものをつくりあげていくことによって、地域コミュニティを運営し、まちをつくっていくこと」を意味します。外国籍市民が共に生きていくことができる多文化共生社会の構築が必要となっています。

第3章 国際化推進の基本方針

1 基本的な考え方

策定の基本的視点

真庭市国際化推進指針は、次の視点に立ち策定します。

- ・市民一人ひとりが外国籍市民に対する偏見をなくし、異文化を理解することにより、国際感覚の醸成を進めます。
- ・観光や仕事等で世界各国から訪れる外国人が安心して過ごすことができ、外国籍市民にとって住みよいまちづくりを進めます。
- ・海外との経済・文化交流活動など多様な活動を進め、特に次世代を担う子ども達がグローバル化する社会に適応できる国際感覚豊かな人づくりを進めます。

2 国際化推進体制の整備

(1) 市民団体の活動支援

NPO、ボランティア団体などの国際交流団体は、環境保全や歴史・文化など様々な分野で世界の人々との交流・協力活動を行うなど、地域の国際化推進の原動力として非常に重要な役割を担っています。

本市においても、資金や人材、活動場所など活動しやすい環境づくりを進めることで、市民、企業、国際交流団体がそれぞれの役割を担い、一体となって取り組みを進めるよう努めます。

(2) 庁内推進体制

本指針の推進にあたっては、庁内の横断的な協力体制をつくり、市役所庁内各部局との連絡及び施策の実施状況の把握を行う必要があります。市民に対して行政の国際化推進体制をわかりやすく周知し、市民及び職員の国際化の意識を啓発するよう努めます。また、外国籍市民の日本での生活に対する不安等を解消するために、相談体制の充実を図ります。

(3) ネットワークづくり

本市においては、国際交流団体の活動を支援するとともに、市民や団体間あるいは行政との情報を交換し、共有することで、ネットワークづくりを進めていきます。

3 人材育成の推進

国際感覚あふれる市民リーダーの育成を目指すために、海外交流・研修の参加、そして海外都市との交流や国際交流団体が行う各種事業やセミナーやフォーラムなどの開催、多文化共生を推進する国際理解のための学習機会を通じて、国際感覚を身に付ける取り組みを進めます。

また、次世代を担う青少年が語学やコミュニケーション能力の向上を図り、外国の歴史や文化等正しい理解と認識を深めるために、ALTの多様な活用や海外の学校との交流活動を促進していきます。

4 国際交流活動の推進

友好都市交流事業については、交流の目的を明確にし、国際感覚を持った人材の育成につながる交流として充実・発展させていきます。

交流は特定の地域に限ったものではなく、市全域を対象に進めていくものとし、友好都市関係が市民レベルでの交流の発展につながるよう努めます。

友好提携を目的とした交流ではなく、交流の実績を重ね、両市の友好の絆をより深いものとするため、市民に対して友好都市の認知度を高めるよう努めます。

また、国際交流は人材育成に留まらず、産業・文化の交流についても今後の取り組みとして進めていき、交流先との技術やノウハウを共有し、互いのまちづくりに活かし、市民、企業、行政が連携した広がりのある交流を目指します。

今後は、ビクターハーバー市との間で学生等を中心とした異文化の理解を深める交流を展開していきます。

また、瑞金市との交流については、これまでの交流は、両者の費用負担が平等でないなど、対等な立場での交流を続けていくことが難しく、学生によるホームステイなどの交流事業については、実施しないこととします。関連して、江西省の人民政府の弁公室が毎年市を表敬訪問され、同市の代表者らと市長等により意見交換を行っており、今後も表敬訪問の受け入れについては、継続していくよう考えています。

そして、京都アメリカ大学コンソーシアム学生のホームステイ受け入れについては、市民団体が中心となり、現在の交流を継続し、友好親善を目的に市全域を対象とした交流が図れるよう努めていきます。

5 多文化共生社会の実現 ―外国人にも暮らしやすいまちづくり―

外国籍市民の増加に伴い、彼らの実情・ニーズ等を把握し、また、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係において、地域社会の構成員として共に

生きていくことができる社会を目指します。

外国籍市民が地域の構成員として地域の住民と生活していくため、多言語による情報提供や日本語教育の充実、行政・生活情報の多言語化など、外国人が地域の一員として安心して生活できる地域づくりを推進します。

具体的には、誰もが安心して暮らしやすく、快適に生活するまちづくりを実現するため、庁内窓口で多言語の行政サービスパンフレットを設置し、将来的には、市のホームページ、観光案内、看板の英語版・中国語版等による行政情報を提供します。

用語説明

- ◆インターネット<1ページ>
パソコンなどの情報通信機器を使い、相互に情報を交換できる通信網
- ◆グローバル化<1ページ>
世界的な規模での動き
- ◆ビクターハーバー市<1・3ページ>
南オーストラリアの州都アデレードから約80キロメートル南に位置し、総人口は1999年現在で約10100人の海岸沿いに位置する町。広大な牧草地と海が織りなす豊かな自然に恵まれ、酪農業のほか、夏場のビーチ・リゾート地としても有名
- ◆中華人民共和国 江西省瑞金市<1・4ページ>
江西省は、中華人民共和国の南東部、長江の中下流の南岸に位置します。東は浙江省や福建省に隣接し、南は広東省に連なり、西は湖南省に接し、北は湖北省、安徽省に続いています。瑞金市の総人口は約57万人、面積は2248平方メートルあり、そのうち水田面積は220平方キロメートル。
- ◆京都アメリカ大学コンソーシアム(KCJS) 学生ホームステイ事業<1・4ページ>
岡山県青年館の国際交流事業として、青年団活動事業の一つとして始められました。ホームステイを中心に国際交流活動を実施する事により、地域づくりと青年団等各種団体の活性化並びに青少年の育成を図ることを目的としている
- ◆総合計画<1ページ>
10カ年(平成18年~27年)の真庭市のまちづくりの目標や進むべき方向性を示した指針。平成18年3月に策定
- ◆ALT<3・7ページ>
《Assistant Language Teacher》の略。外国人指導助手。
- ◆ホームステイ<4ページ>
外国人留学生などが一般家庭に滞在し生活を体験すること
- ◆NPO<4・6ページ>
《Non-Profit Organization》の略。ボランティア団体や市民活動団体などの民間非営利組織を広く指します
- ◆ボランティア<4・6ページ>
社会をよりよくしていくために自分の技能と時間を自主的に無報酬で提供する人々や行為
- ◆セミナー<7ページ>
発表や討論などを交えた講習会
- ◆フォーラム<7ページ>
1つの課題に対し出席者全員が参加して行う討論
- ◆コミュニケーション<7ページ>
人と人がお互いに意思や感情、情報を通じ合うこと

資 料

①ビクターハーバー市との交流の足跡

年	内 容
平成7年	岡山県の南オーストラリア州友好訪問団に旧八束村から参加していた酪農家が、意見交換会の席で酪農家相互の交流を提案したことから始まり、訪問団が来日し旧八束村とビクターハーバー町との間で「友好親善交流に関する覚書」を交換
平成8年	ビクターハーバー町へ訪問（17名） 村長、議長、随行（2名）、通訳、蒜山三座太鼓同好会（12名）
平成8年	蒜山高原マラソン全国大会への参加訪問団来日（14名） ビクターハーバー町長夫妻、ストラスアルビン町長夫妻、日本語教師、ランナー（9名）
平成9年	蒜山高原マラソン全国大会への参加訪問団来日（10名） 役場職員、ランナー
平成10年	中学生海外派遣事業によりビクターハーバー町を訪問（21名） 蒜山中学生17名、役場職員2名、教育委員会1名、中学校1名
平成11年	中学生海外派遣事業によりビクターハーバー町を訪問（25名） 蒜山中学生21名、役場職員3名、教育委員会1名
平成11年	ビクターハーバー町中学生訪問団が来日（23名） 中学生17名、引率者6名
平成11年	蒜山高原マラソン全国大会への参加訪問団来日（16名） 市民ランナー5名、町長等引率者11名
平成12年	八束村長がビクターハーバー市を訪問し姉妹縁組を締結（5名） 村長、副議長、随行3名
平成12年	中学生海外派遣事業によりビクターハーバー町を訪問（17名） 蒜山中学生14名、役場2名、教育委員会1名
平成12年	蒜山高原マラソン全国大会への参加訪問団来日（1名）
平成13年	中学生海外派遣事業によりビクターハーバーを訪問（19名） 蒜山中学生16名、役場2名、教育委員会1名
平成13年	南オーストラリア州中・高生が来日（16名） 生徒11名、引率者5名
平成14年	中学生海外派遣事業によりビクターハーバーを訪問（17名） 蒜山中学生14名、役場2名、教育委員会1名
平成14年	蒜山高原マラソン全国大会への参加訪問団来日（16名）
平成15年	中学生海外派遣事業によりビクターハーバーを訪問（18名） 蒜山中学生14名、役場2名、教育委員会1名、中学校教師1名

年	内 容
平成 15 年	南オーストラリア州中・高生来日（16名） 生徒10名、引率者6名
平成 16 年	中学生海外派遣事業によりビクターハーバーを訪問（20名） 蒜山中学生16名、役場3名、教育委員会1名
平成 16 年	ビクターハーバー市市長夫妻・助役夫妻、インベスティゲーターカレッジの生徒など来日（22名） 市役所7名、生徒11名、引率者4名
平成 18 年	中学生海外派遣事業によりビクターハーバーを訪問（17名） 蒜山中学生14名、市役所3名
平成 18 年	南オーストラリア州中・高生来日（17名） 生徒13名、引率者4名

②中華人民共和国江西省瑞金市との交流の足跡

年	内 容
平成 7 年	中国江西省から友好訪問団訪日（8名） 湯原町内の農業施設、教育施設を見学
平成 8 年	中国江西省より訪日
平成 8 年	湯原町から中国へ友好訪問団（7名）が訪中
平成 9 年	中国江西省外事弁公室訪日（3名）
平成 9 年	湯原町から友好訪問団訪中（12名） 江西省南昌市などを視察
平成 10 年	湯原ふれあいセンターで中国文化交流 フェスティバルを公演
平成 10 年	瑞金市へ訪中（3名）友好関係の発展のための覚書を交わす
平成 11 年	瑞金市人民政府市長、人大常委会主任、政協主席、人民政府副市長衛生局 局長、人民政府外事弁公室主任が（6名）訪日 11月5日 中国瑞金市との覚書（案）の締結
平成 12 年	中国瑞金市との友好提携の同意書を中国へ送付
平成 12 年	中国訪中（21名） 教育長、中学校長、総務課長、看護師、教師2名、中学生15名
平成 13 年	友好都市提携の調印式 町長、議長、主幹が訪中
平成 13 年	瑞金市訪日（13名） 人民政府副市長、瑞金第一中学校長、中学生等（10名）
平成 13 年	瑞金市工商企業考察団訪中（7名） 瑞金市人民政府市長、財政局局長、外事弁公室主任、中国民間会社3名 と通訳

年	内 容
平成 14 年	湯原町長、議長、商工会長が訪中し、経済、技術交流を進めるため、中国から研修生を受入れについて話し合い覚え書きを交わす
平成 14 年	湯原中学生による瑞金中学校の訪中 中学生（9名）、随 行（5名）
平成 16 年	瑞金市中学生による湯原中学校の訪日（22名） 瑞金市中学生（14名）、随 行（8名）
平成 17 年	瑞金中学校が訪日を中止

③京都アメリカ大学コンソーシアム（KCJS）学生ホームステイ受入れ

京都アメリカ大学コンソーシアム（KCJS）の学生及び指導者が北房・落合を訪問。文化交流を目的としてホームステイを行う。

年	内 容
平成 9 年	北房町 学生 37 人・引率者 2 受入れ
平成 10 年	北房町 学生 23 人・引率者 2 受入れ
平成 13 年	北房町 学生 18 人・引率者 1 人受入れ
平成 14 年	北房町 学生 12 人・引率者 1 人受入れ 落合町 学生 11 人・引率者 1 人受入れ
平成 15 年	北房町 学生 10 人・引率者 1 人受入れ 落合町 学生 11 人・引率者 1 人受入れ
平成 16 年	北房町 学生 11 人・引率者 1 人受入れ 落合町 学生 11 人・引率者 1 人受入れ
平成 17 年	北房地区 学生 13 人・引率者 1 人受入れ 落合地区 学生 14 人・
平成 18 年	北房地区 学生 10 人・引率者 1 人受入れ 落合地区 学生 18 人・引率者 1 人受入れ

④A L T配置状況

年	内 容
平成元年	落合町 1 名
平成 2 年	勝山町 1 名
平成 3 年	北房町 1 名
平成 7 年	久世町 1 名
平成 11 年	湯原町 1 名（蒜山地区小・中学校にも来校）
平成 14 年	美甘村 1 名
平成 17 年	（合併）真庭市 6 名（以降継続）